

日 時	令和8年2月6日(金) 13:40~14:40
学校名/機関名	鹿沼市立北中学校
対 象	1年生4クラス(93名) 職員(10名)
講 師	奥澤 健二 氏(奥澤産業株式会社 代表取締役社長) 名村 史絵 氏(三信電工株式会社 代表取締役) 橋本 恵美 氏(栃木小松フォークリフト株式会社 代表取締役会長) 林 明夫 氏(株式会社開倫塾 代表取締役社長)
内 容	<p>働くことの意義や素晴らしさを知り、将来について考える一助とすることをねらいとして、4人の講師がそれぞれの経験に基づいた多様な視点から講話を行いました。</p> <p>ある講師は、相田みつを氏の言葉を引用し「一生勉強、一生青春」の精神で学び続ける大切さを説きました。学ぶことで将来の選択肢が広がることを伝え、読書や新聞、AIの活用を通じて知識と感性を高めるよう促しました。</p> <p>地域企業は、地域社会において存在意義のある企業であるべきだと語りました。決して卑怯な商売をせず、誠実にお客様の困りごとを解決する姿勢が不可欠であると説きました。自社の強みを理解すると同時に、自分自身のセールスポイントを磨くことの重要性を呼びかけました。</p> <p>キャリアを形成するために、結果よりもプロセスを重視し、勇気を持って挑戦してほしいと訴えました。現状に満足する「コンフォートゾーン」から抜け出し、苦勞を糧にする前向きな姿勢を促しました。</p> <p>社会人としての基本である「謙虚に教わる姿勢」や「報告・連絡・相談」の徹底について話しました。指示されたことだけをこなすのは「作業」であり、自ら考えて人の役に立つことこそが「仕事」であると説きました。誠実・明朗・協和の精神を持ち、誰かの役に立つ喜びをやりがいに変えてほしいと強調しました。</p> <p>最後に、しっかり働き、しっかり楽しむというメリハリのある人生を送る大切さを伝えました。「未来の自分を決めるのは今の自分自身である」と締めくくりました。</p>

